

活動概況

助成事業

2020年度活動状況

「重い病気を抱える子どもの学び支援」「経済的困難を抱える子どもの学び支援」「被災した子どもの学びや育ちの支援」の3テーマについて、各地域で子ども支援に取り組む団体への助成支援を実施しています。



重い病気を抱える子どもの学び支援活動助成

病院、学校、支援団体とともに 学びや体験のモデルづくりへ

重い病気により長期入院や長期療養をしている子どもの意欲を高め、学びに取り組む手助けとなる団体の活動に対して、過去6年間で約43団体を支援してきました。

支援事業例

- ICTを活用し学校と病院をつなぐ学習支援事業
- 病気を抱える子どもと保護者を対象にした親子イベント事業
- ボランティア育成事業
- ファンドレイズなど支援者を増やす活動事業 など

領域全体の現状と課題

難病の子ども
約15万人^{※1}

医療的ケア児
約2万人^{※2}

病気を理由に長期欠席した
小中学生約4.6万人^{※3}

医療の進歩とともに助かる命が増えた一方で、長期的な治療や医療的なケアが必要な子どもの学びや体験の機会が十分ではありません。成長に応じた学びや遊び、音楽や美術にふれること、

家族以外の人との交流も大切です。困難を抱える子どもの学びの必要性を多くの人々に知っていただくこと、また困難さの解決に向けた問題提起やユニークな視点を含んだ支援策、同じ課

題に取り組む人たちが参考にできるモデルとなることが期待できる活動などを全国に普及させていくことの2点が重要です。

※1 出典：「第1回小児慢性特定疾病対策等の基本方針検討会」(厚生労働省) ※2 出典：「第17回医療計画の見直し等に関する検討会」(厚生労働省)
※3 出典：「令和元年度児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査結果」(文部科学省)

患者である前に高校生 ～就学時に長期入院が必要になった高校生の一例～

病気発症～入院生活開始

突然病気を発症した子どもはショックを受けたまま辛い治療を開始。慣れない入院生活によるストレスを抱えたり、辛い治療による見た目の変化など、心身ともに辛い状況になります。

長期の入院生活

義務教育課程ではない高校生向けの院内学級はほぼないため、休学・退学による学習空白が発生。高校は出席日数や単位履修で進級や卒業が認められるため、留年を余儀なくされる場合もあります。希望する進路を諦めるケースもあり、将来に対する不安が大きくなります。

退院～復学

退院＝病気の完治というわけではありません。退院後も通院しながら自宅療養を続け、もとの生活に戻していく場合が多いです。体力を回復させることや入院中の学習の遅れを取り戻すことだけでなく、学校や友人など周りの理解や協力を得るには、想像を超える困難さがあります。



子ども支援の展望

病気を抱える子どもを長期間サポートしていくためには、医療分野だけでなく多様なセクターと連携し、包括的に支援体制を構築することが不可欠です。また、情報のハブとなるコーディネーターの存在も重要になります。まだまだ担

い手が少ない領域であるため、闘病の時期や期間に左右されず、学びや体験が保証され、将来への希望を失うことがないように、様々な支援方法や担い手が揃えることが重要です。



2020年度活動団体と活動トピックス

特定非営利活動法人 i-care kids 京都 所在地：京都府

食育

京都市内に小規模保育園キコレを開園。食事の制約が多い医療的ケア児に食育プログラムを展開。季節の食材を五感で楽しむ体験を通して、子どもたちが食を楽しめるようになった。食の工夫はご家庭にもお伝えし、ホームページでも発信。

一般社団法人 日本育療学会 所在地：京都府

調査・啓発

病気療養中の子どもが、病室や自宅から学校とICTでつながり学べる環境を作るため、携帯型Wi-Filruterを希望する33校に提供し、活用支援を実施。事業終了後も校費で使い切り型SIMカードを購入し、継続的に学ぶシステムができた。

特定非営利活動法人 未来 ISSEY 所在地：香川県

学習支援

入院中の子どもに学習支援やイベントを届ける学生ボランティア(グッドブラザー)120名を研修にて育成。コロナ禍でも工夫を重ね、安定的に病棟派遣ができる体制ができた。病弱児のきょうだい問題をテーマにした広報用ムービーも作成。

一般社団法人 在宅療養ネットワーク 所在地：香川県

病気への理解支援

医療的ケアが必要な子どもたちがいる学校や保育園で、その子ども一人ひとりに合わせた症状をわかりやすく説明する紙芝居を作成。病気のことを、本人も友達も理解を促す参加型読み聞かせや保育士向け研修を実施。

特定非営利活動法人 BLACKSOX 所在地：神奈川県

スポーツ・文化体験

医療的ケア児や重度重複障がい児向けにチャレンジスポーツのイベントを開催。健常児や社会人とともに様々なスポーツに挑戦した。コロナ禍でもオンラインで楽しめる活動を継続。

認定特定非営利活動法人 ポケットサポート 所在地：岡山県

調査・啓発

岡山県内の学校現場における病気を抱える子どもの支援課題に関するアンケート調査を実施。273校より回答いただき、課題が明確になるとともに、地域の学校との連携が強化された。調査結果を報告するシンポジウムを開催(346名参加)



経済的困難を抱える子どもの学び支援活動助成

経済的困難をもたらす あらゆる格差に根本的な解決を

経済的な困難を抱える多様な子どもの課題に対して、支援団体の事業基盤の強化や新たな事業へのチャレンジなど、中長期視点で課題に取り組む団体の活動に対して、最大3か年の助成を実施しています。複数年助成を開始した2年間で、13団体を支援しました。

- 支援事業例**
- 外国ルーツの子どもの社会的養護施設の子どもの学習支援
 - 支援教室に来ることができない子どもの訪問型学習支援
 - 自治体や学校、地域などとの協働事業 など

領域全体の現状と課題

子どもたちは、教育や体験の機会に乏しく、地域や社会から孤立しがちで、様々な面で不利な状況に置かれています。子どもの困難さも多様化、複雑化していること、また地域ごとに課題の特徴や深刻さが異なることから、地域全体での支援が求められます。

※1 出典：「国民生活基礎調査」(厚生労働省)
 ※2 出典：「外国人の子供の就学状況等調査」(文部科学省)
 ※3 出典：「社会的養護の現状について(参考資料)」(厚生労働省)

| | | |
|--------------------------------|----------------------------------|---------------------------------|
| 子どもの貧困 約7人に1人 ^{※1} | 外国ルーツの 子ども約12万人 ^{※2} | 社会的養護児童 約4万5千人 ^{※3} |
|--------------------------------|----------------------------------|---------------------------------|



経済的困難を抱える子どもの一例

外国ルーツの子どもの一例

外国ルーツを持つ子どもが直面する問題の一つは「日本語の習得」です。日本語が十分ではないため、学習内容を理解できず学習意欲を失ったり、友達とコミュニケーションをとることができず、不登校になるケースも見られます。また、ダブルリミテッド(二か国語以上話すことができるが、どの言語も適切なレベルに達していない状態)が原因で、学力不振や、親子の会話が深められず家庭での関係性を構築できないなどの支障が発生します。



社会的養護の子どもの一例

経済的困難を背景とした虐待などにより社会的養護の対象となった子どもは、適切な養育が受けられなかったことにより生じる発達のゆがみや心の傷を持つことで、自己肯定感が低いケースがあります。自己肯定感を回復させるには特定の一貫した大人による継続的な個別支援が必要ですが、職員不足により十分な支援ができていないケースも見られます。



子ども支援の展望

地域や領域ごとに多様化・複雑化している経済的困難を抱える子ども達をサポートしていくためには、各ステークホルダーが連携し、包括的に支援体制を構築することが不可欠です。学びや体験の機会提供はもちろん必要ですが、一人ひとりの子どもたちの状況を理解し寄り添って、地域で最適な支援方法を探っていく段階にある

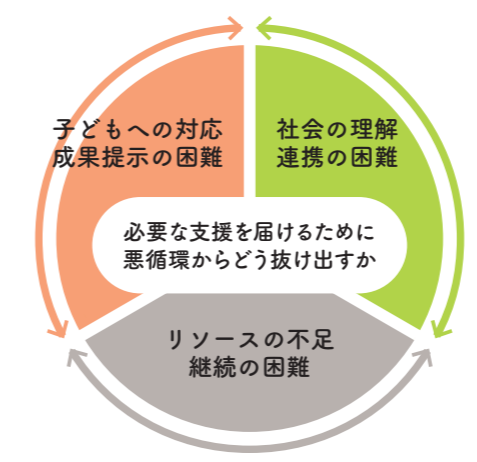
といえます。学校の先生やスクールソーシャルワーカー、行政の各部担当、ケースワーカー・相談員などが、地域の学習教室や居場所支援、子ども食堂等とつながり、子どもの課題解決が全国の地域で展開され、制度化されることが期待されます。



複雑化する子ども支援の現場が直面している課題

- 成果を示すエビデンスの提示が困難
- 学校、自治体、外部機関との連携・協働の困難
- スタッフの安定的な雇用の困難など

子どもの学習支援団体の多くは、予算や場所、担い手育成など活動を継続するためのリソースに苦慮されている状況です。2019年の当財団の調査結果からも、多岐にわたる困難が浮き彫りになりました。支援団体の事業基盤強化を中長期的に支援していくことの重要性を再認識しています。



- STEP 01 団体基盤強化力**
- ・ステークホルダーとの関係性構築
 - ・広報
 - ・ファンドレイズ
 - ・人財育成
 - ・会計
- STEP 02 事業の継続力**
- ・自主財源の拡充
 - ・他団体、企業、行政との協働
- STEP 03 社会への発信力**
- ・事業成果発信/政策提言

活動2年目団体

特定非営利活動法人 アスイク **所在地：宮城県**

2019年度より始めた、仙台市内3か所のフリースペースの開催を週2に増やし実績を積み上げた。年間延べ利用者数は前年度の3倍近くとなり、対象者の居場所として機能し、継続的な関係構築につながった。2021年度から市の予算化決定。

認定特定非営利活動法人 茨城 NPO センター・コムズ **所在地：茨城県**

就学準備ができた状態で小学校に入学、転入するためのプレスクール、プレクラスを開催しながら、意義を自治体に提案し、2022年から常総市での実施を目指す。子ども課や保健センターでのパンフ配布や研修などの母語教育啓発も実施。

特定非営利活動法人 シェイクハンズ **所在地：愛知県**

学習支援教室を実施しながら、生きる力をつけるための子ども農園を実施。地域の人の巻き込み、農福連携のコミュニティ農園に発展させた。また子どもネットワーク会議を運営し、支援者、理解者を増やすシンポジウムも開催

特定非営利活動法人 寺子屋方丈舎 **所在地：福島県**

居場所づくりスタッフのスキルアップを週1のon-line研修にて実施。現場のプログラム運営やプログラムづくりのノウハウが蓄積・共有された。またケース会議後の振り返りなどを丁寧に行い、ソーシャルワークスキルもアップできた。

一般社団法人 栃木県若年者支援機構 **所在地：栃木県**

学習教室に来ることができない子どもたちにアウトリーチを行い、訪問型学習を実施。コロナ禍に対応しながら、on-lineでのボランティアの募集、研修を行いながら、企業寄附を引き出す活動などの資金調達にも力を入れる。

特定非営利活動法人 HUGforALL **所在地：東京都**

児童養護施設でくらす子どもたちの「生きる力」につながるプログラムをコロナ禍に対応する形でオンラインで提供。継続してプログラムの見直しも行った。また、ボランティア募集につながる団体サイト改訂などの基盤整備も実施。

認定特定非営利活動法人 浜松 NPO ネットワークセンター **所在地：静岡県**

学習教室に来ることができない子どもたちへの訪問型学習を実施しながら、実務者ネットワーク構築のための調査活動や子ども支援者研修会を行う。・生徒：9名(6家族)・講師：4名 のべ324回(461.25h)実施

活動1年目団体

特定非営利活動法人 暮らしづくりネットワーク北芝 **所在地：大阪府**

大学生や元教員のボランティアたちが先生となり、公営団地の集会所等で児童生徒の学習を手助けする寺子屋事業を開始。行政・学校・保護者・地域の団体・有識者で構成した運営委員会を設置し、地域で子どもを支援する事業も開始。

特定非営利活動法人 サンカクシャ **所在地：東京都**

学びの意欲が低い子ども若者を支援するためのモデル開発事業を開始。英会話や動画編集など「部活動」という枠組みで、仲間と一緒に楽しく体験や経験をすることで、子ども若者たちのやる気を引き出す。実施回数111回、延べ154名参加。

特定非営利活動法人 チャイボラ **所在地：東京都**

児童養護施設など社会的養護の施設情報や社会的養護に関する幅広い情報をとりまとめ発信しているサイト「チャボナビ」の改定や、養成校への出張授業を実施。サイト訪問者数1万人以上、サイト会員登録者387名。授業参加学生831人。

特定非営利活動法人 TEDIC **所在地：宮城県**

過去の支援記録や活動記録などを棚卸し、定性的な価値・バリューの可視化を実施。インタビュー逐語録、分析レポート、TEDIC10年間の活動年表を作成。定性的価値の必要性を再確認し、自治体の委託事業年次報告書にも掲載し報告。

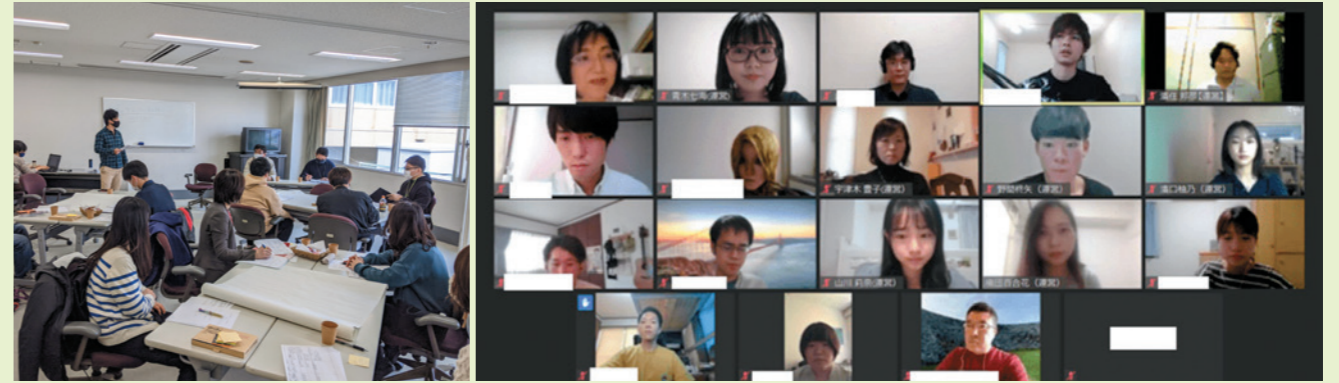
認定特定非営利活動法人 ふじみの国際交流センター **所在地：埼玉県**

来日後の外国人親子をサポートするための教材制作や指導者育成研修会を実施。日本の学校に初めて通う子どもが困らないために一番に覚えるべき言葉を掲載するなど実践的な子ども向けオリジナル教材3つが完成。

特定非営利活動法人 ユースコミュニティ **所在地：東京都**

ファンドレイジング確立のため基盤整備を実施。大学生ボランティア5名と共にSNSを活用した広報活動や、地域学習会をオンラインで開催。結果、サイトアクセス803PV、オンライン学習会参加39名、マンスリー新規会員7名を獲得。

各団体の詳しい施策内容と結果については、ベネッセこども基金サイトに掲載しています。ぜひご覧ください。





被災した子どもの学びや育ちの支援活動助成

2020年度7月に熊本県を中心に発生した豪雨被害に対して緊急助成を実施しました。日常生活を取り戻す時間の中で、生活上の困難だけでなく、被災や生活の変化によるストレスの発散、安心できる居場所の確保、失われ

た学びの機会や環境の提供など、多岐に渡る子ども支援への助成を行いました。感染症対策への配慮も同時に求められる困難さもあり、助成期間を延長しました。

- ・助成対象地域：熊本県、鹿児島県、福岡県、大分県、長野県、岐阜県、山形県
- ・募集期間：2020年7月13日～9月30日の期間において、公募と随時審査（計7回実施）
- ・助成対象期間：2020年7月4日～2021年1月31日（新型コロナウイルス感染症影響による延長2021年3月31日まで）
- ・応募数：11事業 採択数：8事業
- ・助成総額：3,355,000円

被災地の子どもの課題



- 被災による生活上の困難
- 被災によるストレス
- 安心できる居場所の喪失
- 学習環境の喪失
- 忙しい保護者に代わる託児や見守りの必要性

＋ 感染症対策

- 支援者は県内に限る
- イベント実施の困難さ

災害に加えコロナ禍による困難も

解決策：助成事業

心のケア



日常生活を奪われ、ストレスをためがちな子どもたちの発散やいやしの場をつくる。

運動機会支援



避難生活などで運動量が減ることで、ストレスをためたり体力が低下したりすることを防ぐための運動機会の提供。

居場所



生活再建のために大人が奔走する中、安心して子どもを預けられる場を提供する。

学習支援



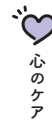
災害にあっても、学びを途切れさせないための学習支援。今年はオンラインなど、感染対策を考慮。



災害で生活が変わった子供を支援する会

活動地域：熊本県八代市坂元町近郊

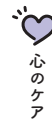
物資の支援や、工作などのアクティビティを通して、子どもたちが安心して過ごせる場を提供。



特定非営利活動法人 熊本県子ども劇場連絡会

活動地域：熊本県人吉市・八代市及び隣接する町村

子ども向け舞台の実施を通して、子どもの不安を取り除き、表現する機会を提供。



水俣芦北広域地域団体 やまびこ

活動地域：熊本県葦北郡

復興の途上で疲弊している親と子どもたちのための、ハロウィン祭りの実施。



一般社団法人 FUN & FIT

活動地域：熊本県八代市

地域や通学路が被災した小学校の、放課後の見守りや、運動機会の提供。



特定非営利活動法人 みさと

活動地域：熊本県葦北郡

ワークショップや図書館づくりを通じた、災害後の第3の居場所づくり。



特定非営利活動法人 ITAL

活動地域：熊本県人吉市

子どもたちのダンスのワークショップや発表イベントの実施。



特定非営利活動法人 いるか

活動地域：熊本県人吉市など

居場所としての機能も兼ねた、講師と学習の場をオンラインでつないだ学習支援サポート。



公益財団法人 日本YMCA同盟

活動地域：熊本県球磨郡多良木町

避難生活をプラスに変える、避難所での小中高校生を対象としたプログラミング体験の実施。

※採択決定順